平成23年度　茨城県立取手第一高等学校自己評価表

目指す 学校像	本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神のもとに自ら学び自ら考える力を育み，社会の変化に対応できる能力を備えた心豊かな人間の育成に努める。また，総合学科としての進学校を目標に教職員が一致協力し学校運営に努め，生徒一人一人の進路希望の実現と明るく活力ある学校づくりを目指す。

昨年度の成果と課題	重点項目	重　点　目　標	達成状況
各分野の目標を達成するための教育課程はほぼ定着した。確かな学力を育成する指導のより一層の工夫に努める必要がある。特にアカデミック系列では希望大学への進学が可能となる学力を養う指導の強化，プラクティカル系列・インフォメーション系列では資格取得を活用した推薦入試に対する指導の充実をはかる必要がある。 基本的生活習慣面では,頭髪・遅刻については長期休業明けなどを除けば基本的にはしっかりしてきている。服装については一部にだらしない着方をするものがおり，継続的な指導が必要である。また，公共の場でのマナーに問題のある生徒がいるがその都度指導しており改善している。 部活動への加入率をさらに高め,また文化祭等の学校行事や各種委員会活動，学校内外でのボランティア活動等への参加を奨励することで高校生活を質的に充実させる必要がある。	１大学等進学希望実現にむけた効果的な学習指導方法の確立を図る。	①授業時間の確保に努め，興味・関心を持たせる授業を展開する。	
		②授業のより一層の充実をはかり，生徒の学習意欲を喚起する。シラバスの定期的利用を励行する。	
		③小テストや週末課題を実施し，家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	
		④増進課外指導の継続や自習室・Q&Aルームの有効活用を図り，より高い学力を身につけさせる。	
		⑤各分野の専門性や資格取得を活用した学力向上を一層推進する。	
	２総合学科における効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。	⑥教育課程の改善や進路目的別ｸﾗｽの編成など総合学科の特性を活かした分野・系列別指導を充実する。	
		⑦面談を通して進路希望と結びついた，より望ましい科目選択をさせる。	
		⑧キャリア教育を推進し，望ましい勤労観・職業観を醸成し，主体的に進路を選択する能力・態度を育成する。	
		⑨進路選択のための情報分析と資料提供を積極的に行い，希望進路を実現できるきめ細かな進路指導を行う。 【国公立大学合格者５名，私立大学短期大学合格者150名，就職希望者内定率100％】	
	３基本的生活習慣を確立し，自己指導力を養成する。	⑩服装・頭髪・遅刻指導を全教職員の共通理解の元で継続的に実施する。	
		⑪生徒が，積極的に挨拶する態度と習慣を育成する。	
		⑫生徒が自主的に生活習慣を改善していく態度を育成する。	
		⑬PTAや地域住民と積極的に連携を図り，信頼・協力関係を強める。	
	４高校生活の充実を図る。	⑭体験入部や部活動紹介を通して部活動加入率を高め，部活動の活性化を図る。 【部活動加入率　55％】	
		⑮文化祭等の学校行事や各種委員会活動の充実を図る。	
		⑯心身の健康保持増進の指導に注力し，環境整備に努める。	
		⑰ボランティア活動や道徳教育を推進して心の教育を充実するとともに，地域社会に貢献する。	

評価項目		具 体 的 目 標	具　体　的　方　策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		わかりやすい授業の展開 基本的学習習慣の確立 基礎力・応用力の養成 個々の生徒の能力の伸長	総合学科として各分野の目標にそった授業計画を毎時間さらに立案し，わかりやすい授業をする。	①②			
			授業後に指導内容を点検し，教科会等での検討を通じて，次時の改善に生かす。	①②			
			１・２年次の英語・数学・国語の主要３教科については特に基礎力・応用力の向上を推進する。	①②			
			１・２年次の英語・数学・国語の主要３教科を中心にして週末課題や小テストを行い学習習慣の確立に務める。	③④			
			面談や観察を通して生徒個々を把握し，個々の生徒の能力の健全な成長に努める。	⑤⑦			
教科	国語	基礎学力の向上をはかるとともに，国語に対する関心を高める。	学習効果を上げるため，単元終了時に小テストを実施し，事後の指導の徹底を図る。	③			
			資格検定（漢字検定２級）の取得数を昨年度比１０％増を目標とする。	⑤			
		数多くの作品を深く読解・鑑賞することで心豊かな人間形成を目指す。	音読・朗読・暗唱などの読みの徹底を図ることにより，古典の世界に溶け込むようにする。	②			
			古文単語テストや暗唱テストを実施し，関心を喚起することで次段階への足がかりとする。	③			
			単元終了時に関連作品の案内をする。また，要旨や感想文などをまとめることで，表現力を養う。	②			
		進路に対応した授業を展開する。	生徒の実態に即した教材の採択をし，授業形態にも配慮する。	②			
			一人ひとりの個性を伸ばし，多様化した社会に対応できるように，偏りのない多くの教材を学べるよう配慮する。	②			
			図書館を利用した読書指導を強化し，進路指導の一助とする。	②			

※評価基準　　A：大変よくできた。　B：よくできた。　C：やや不十分。　　D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	地歴公民	基礎学力を定着させる。	教材や板書の内容をよく練り，必要な知識をしっかりと伝達できるように努める。	①			
			単元や教材の終了時にはその内容に応じたまとめを実施し，事後の指導の徹底を図る。	②			
		進路に対応した授業を展開する。	学習の中で画像や動画・パワーポイントなどの視聴覚教材を適切に使用し，多面的な知識の定着を図る。	①			
			現在の社会情勢との関連付けを授業内容に盛り込み，進路実現や，現代社会に生きる社会人としての現代理解などに必要な知識を育む。	①			
	数学	基礎学力の定着をはかる。	基本計算の反復練習をさせる。	③			
			習熟度別クラス編成により，きめ細かい指導を行う。	②			
			補習や課外を実施し，生徒個々の学力の伸長に努める。	④			
		家庭学習習慣の定着をめざす。	工夫した授業により，数学に対する興味・関心を高め，家庭でも学習するよう常に促す。	①			
			課題を定期的に与える。	③			
			課題テストを定期的に実施する。	③			
		模擬試験・センター試験に対応した指導を行う。	教科書の例題や問いを説明する中で，模擬試験にもつながるよう意識した授業を行う。	①			
			模擬試験やセンター試験レベル等の問題を必要に応じて取り入れ，基礎的な学力を高める。	①			
	理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等の実施により科学的興味をもたせる。	①			
			身近なものを例に出し，授業内容との関連付けを行う。	①			
			観察が困難なもの等については，ＣＧや映像資料を活用する。	①			
		科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い，レポートの考察の方法について指導する。	②			
			課題研究などを行い，自ら課題を見つけ探求させる。	②			
			授業中の発問を工夫し，思考力を高める。	②			
		大学入試レベルの学力を身につける。	小テストなどで基本的な概念や原理・法則の定着を図る。	③			
			課外を積極的に行い，入試問題を解くことに慣れさせる。	④			
			模擬試験前には過去問を解かせ，模擬試験実施後には解説を行い弱点の克服に努める。	④			
	保健体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	⑫⑯			
			グループ学習を通して価値観を広げる。	⑫⑯			
			自己実現に向けて，ライフ・スキルの向上を図る。	⑫⑯			
		体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し，計画的に体力の向上を図る。	⑫⑯			
			体つくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ，継続して行う。	⑫⑯			
			測定・評価基準を確立し，生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	⑫⑯			
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気で活動するとともに，集団行動のマナーを身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声でのあいさつの励行等を指導し，積極的に取り組む姿勢を育てる。	⑪			
			声かけなどのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを通して，互いに尊重しあう態度を養う。	⑪			
			体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し，生徒の自主性を育てる指導をする。	⑪⑫			
			施設・用具を大切に扱う態度を身につけさせる。	⑫			
	音楽	音楽の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情や感性を高め，主体的な活動を行う授業を展開する	様々なジャンルの音楽や作品に触れ，豊かな情操を養う。	①			
			できる限り個に応じた丁寧な指導を目指す。	①			
			課題提出や小テストを定期的に行う。	②⑤			
			発表の機会を多く取り入れ，演奏技能を高めるよう努める。	②			

※評価基準　Ａ：大変よくできた。　Ｂ：よくできた。　Ｃ：やや不十分。　Ｄ：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	美術	美術Ⅰ 作品制作，鑑賞を通して観察力や創造力を高め，自己の良さや個性を発見する。	鉛筆，絵具などの使い方を覚え，デザインに関する知識，美術表現の基礎を学ぶ。	①			
			作品を制作，完成することにより創造する楽しさ，達成する喜びを味わわせる。	①			
			自身でコンセプトを考え，制作を行うことで，自己表現の発見と個性を感じさせる。	②⑤			
		美術Ⅱ 発想力，構想力を高め，個性豊かな美術能力を育てる。	日本や世界の文化から生まれた美術表現を知り，表現方法の違いや美しさを感じ，豊かな感性を育てる。	①			
			作品制作前にコンセプトを考え，完成後に感想，反省などの自己評価を書かせ提出させ，講評を行う。	②			
	書道	基礎的な知識や鑑賞法，表現法を習得させ，書道を愛好する心情や感性を高める。	使用する用具，用材の成り立ちや製法，使用法，保管の仕方を学びながらものを大切にする心を学ばせる。	①			
			古典作品や生徒間の作品を鑑賞させ，豊かな表現技術の習得と意図した作品の制作が出来るようにする。	②			
			授業の内容に適った教材の準備と工夫に努める。	①			
	英語	自発的，継続的学習力の育成	予習，復習，週末課題，小テスト等を通し，継続的に家庭学習が必要であることを体得させ，家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	②③			
		基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る	授業重視の学習に加え，大学入試を念頭に3年間を見据えた計画的な指導を組み立てる。英検受験を教科指導の柱のひとつにして、準2級取得者70名、2級取得者5名を目指す。	⑨			
		一般入試での大学進学可能な英語力の向上を図る	上位層の伸張を図るための課外授業を充実させる。	⑨			
	家庭	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	身近な生活課題を取り上げ，問題解決的な学習展開の工夫に努める。	⑤			
			実験・実習により学習の効果を高める。	⑥			
			確実な定着を図る意味で学習を振り返り，自己評価・確認小テストを実施する。	⑦			
		興味・関心・楽しさを感じる授業作りに努める。	単元ごとに効果的で，生徒自ら主体的に学習活動を行う内容・教材を考え導入する。	⑤			
			学習環境を整備し火気・用具・材料等の取り扱いに注意し事故防止の指導を徹底する。	⑥			
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	１年次の「分野説明会」における説明と「分野基礎」の授業を通し，「メカニック分野」「情報技術分野」で学ぶ内容を良く理解した上での選択をさせる。	①⑥			
			１・２年次の授業で，「工業数理」，「工業基礎」の内容を補い，専門的な基礎力の向上をはかるとともに，３年次においては進路と直結した専門性の向上を目指す教育を推進する。	①②⑨			
		資格指導を充実させる。ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格である「工事担任者」，「ボイラー技士」等については，授業や課外授業において的確な指導を行う。	⑤			
			「危険物取扱者」「アーク・ガス溶接」等の資格・検定受験について裾野を広げた取り組みを行うとともに，資格取得に向けて計画的に指導を行う。	⑤			
		時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ロボット・制御技術，およびＣＡＤ・ＣＡＭなどの先端技術を取り入れた授業と実習および課題研究等の成果にもとづいた進路実現（推薦，ＡＯ，就職）を図る。	⑤⑨			
			レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取入れ，技術者として必要な表現力を育てる。	⑨			
	商業	わかる授業の展開	生徒の基礎学力を把握し,全体指導・個別指導を効果的に実施し学習内容の定着を図る。	①②			
		専門性と学力の向上	生徒が進路希望実現に活かせる専門知識の習得及び上級資格の取得に努める。	⑥⑧			
		検定試験の合格率をたかめる	検定試験直前特訓課外を実施し，検定・資格取得への意欲の向上と合格率の向上に努める。	④			
		家庭における学習習慣の確立	宿題・課題・小テスト等を授業担当者が工夫し，生徒が家庭学習をする習慣を身につけるよう努める。	③			

※評価基準　Ａ：大変よくできた。　Ｂ：よくできた。　Ｃ：やや不十分。　Ｄ：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	情報	情報社会において必要な基礎的な知識・技能を身につけさせる。	コンピュータ用語などの最新の用語を授業に取り入れ，新聞記事やニュースなどを用いり，知識の習得を図る。	②			
			ワープロ，表計算，マルチメディアなどの実習を行い課題を提出させ，基本的な操作技術を身につけさせるとともに実社会に役立つ思考力・判断力を育成する。	⑧			
		情報社会に対する興味・関心を引き出すと共に，進路に対する意欲を高める。	情報社会に必要なスキル（コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力）を実習を通して身につけ，進路実現に向けての意欲を向上させる。	⑤			
教務		分野の編成および開設講座等のあり方についての見直し。	「教育課程検討委員会」とともに，現在の教育課程の問題点を探り，新教育課程への移行に備える。	⑥			
		資格・検定等のデータの有効利用	専門性や資格取得を活用した推薦入試・就職体制を一層推進するための資格・検定試験の合格者データなどの資料提供等を行う。	⑤			
		学校広報活動の充実	保護者・地域住民・中学生・卒業生との係わりをもつための広報誌の発行，「ホームページ」による本校の教育活動の紹介や各年次，校務分掌等の活動や情報の公開を継続し，さらに充実する。	⑬⑰			
生徒指導		基本的生活習慣の確立	頭髪・服装指導を継続的に実施し，頭髪・服装の適正化を図り，生徒の自己指導力を育成する。	⑩⑫			
			毎日の遅刻指導と，月間の指導の併用により遅刻者の減少を図る。	⑩⑫			
			登下校指導を継続的に実施し，挨拶指導をするとともに，生徒とのコミュニケーションを図る。	⑪			
		問題行動の予防	教科，ＨＲ，講演会をとおして問題行動の未然防止に努める。	⑫			
		保護者・地域・関係諸機関	家庭との連絡を密にして，校則等の遵守に協力を依頼する。	⑬			
			保護者に，登下校指導や学校行事への積極的な参加を依頼する。	⑬			
			地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との連携を図る。	⑬			
進路指導		各年次と進学及び就職担当者間の連携強化	各年次と進学及び就職担当者間の連携を取り，情報の共有化を図る。	⑨			
			「産業社会と人間」，「学創(総合的な学習の時間)」，「ＬＨＲ」等において進路に関する内容に対して，情報や資料の提供等を行う。	⑦⑧			
			進学，就職指導に「進路の手引き」を有効に活用できる機会や，年次単位で行う進路ガイダンスとの調整を図る。また，卒業生のデータを蓄積・分析により，データ化して独自の合格指針の確立を目指す。	⑨			
		キャリア教育の充実・発展	キャリア教育に関する教材・資料・講演会案内等を提供し，ＨＲ等で活用することによって，キャリア教育に関する理解が深められるよう努める。	⑧			
			インターンシップを奨励することによって，生徒の職業観・勤労観を育む機会とする。	⑧			
		大学進学指導体制の充実	年次，進学指導部間の連携を密にして，国公立大学を目指す生徒の個人指導を強化する。	⑨			
			国公立大学合格者５名以上，私立大学合格者１５０名以上				
			一般入試受験者にも対応できるより効果的な授業の実践及び受験指導の充実に努める。	④			
			大学説明会への参加，進学先の学校訪問を行い情報収集に努める。また国公立大学主催の出張授業やバス見学会などを展開し，進学意識の向上を図る。	⑨			
		就職指導の強化	積極的な求人開拓を通して，１社でも多くの求人を確保する。	⑨			
			ガイダンス機能を生かし，就職希望者に対する事前・事後指導の徹底および充実を図る。	⑧⑨			
			ハローワーク等外部の機関との連携を強化し，就職未決定者を極力少なくするよう努める。	⑨			
		学力の向上，大学入試に対応できる応用力の増進	朝の小テストの活用，Ｑ＆Ａルーム・自習室の利用促進，課外授業の充実などによりさらなる学力向上を図る。	③④			
			進路指導部だより，進学講演会，公開授業，出前授業，個人面接資料配布などを通じて，教員の進学指導支援体制を充実させる。	⑨			

※評価基準　Ａ：大変よくできた。　Ｂ：よくできた。　Ｃ：やや不十分。　Ｄ：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と，豊かな心の育成	各ホームルーム活動が自主的かつ活発におこなわれるよう、全体としての生徒会活動が自主的かつ活発におこなわれるよう留意して指導する。	⑮			
	部活動の活性化	部活動への参加を促進するため、「部活動紹介」行事や「体験入部」を新入生を対象に実施する。各部の活動の活発化のために、適切な予算措置等を講ずる。	⑭			
	学校行事の充実	生徒会活動が生徒によって自主的かつ活発におこなわれるよう、各年次やホームルームとの連携を図りながら、執行部役員や文化祭実行委員等の指導をおこなう。	⑮			
		生徒の安全と健康を守るため，生徒会行事等の実施に際しては，東日本地震の余震などの地震，福島原発事故による放射性物質放出についての対策を講ずる。	⑯			
保健	生徒の学習・生活環境を整備する。	校舎内外の安全点検と保健委員による清掃点検を実施する。	⑮⑯			
		定期的に水質検査や照度検査を実施する。	⑫			
	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	健康診断や身体測定の結果を有効活用し，自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	⑫			
		感染症の予防やケア対策を図る。【昨年度の半数(30名)以下になるように努力する】	⑯			
	安全教育の実施	緊急時の対応マニュアルの見直しをする。	⑯			
	特別支援体制の充実	特別支援理解の講演会を実施する。	⑯			
	思春期の心の育成と豊かな感性を養わせる。	教育相談体制の充実を図る。	⑮			
		より豊かな成長を目指し，主体的に自らの心と身体に向き合えるよう講演会や保健便り等で情報を提供する。	⑯			
渉外	ＰＴＡ諸活動を助成する。	直接的もしくは間接的に生徒にとって有益な事業計画（研修会・模試の監督等）の実施に向けて保護者との連携を密にして調整を行い，企画立案する。	⑬			
		ＰＴＡ総会の案内は郵送し，各学年ごとに学年懇談会を実施する。	⑬			
		単位ＰＴＡとしての活動を活性化し，各事業（取手市・県南・県・関東・全国）の参加については担当を分担して行う。	⑬			
	同窓会活動を助成する。	90周年事業の成功に向けて実行委員会を組織し，協力体制を確立する。	⑬			
		同窓生の膨大な人的な財産を有効活用し，生徒へ還元していく。	⑬			
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活発化させる。	各年次の具体的活動内容を把握し，その学習活動に沿った資料の計画的意図的提供をする。	⑪			
		図書館だよりを定期的に発行し新刊の案内等をスピーディに行う。	⑪			
	本校の学習活動・教育活動を援助する。	国語の時間などを利用し集団読書を実施する。	⑥			
		長期の休業時に読書感想文を課題とし，コンクールに応募する。	⑪			
		大学入試や就職試験等，生徒の進路に繋がる読書を勧めることにより読書意欲を高める。	⑧⑨			
	図書委員会活動の強化を図る。	委員としての役割を十分に認識させ，各係が年次の枠を越えたグループのなかで協力しあえるよう指導する。	⑮			

※評価基準　Ａ：大変よくできた。　Ｂ：よくできた。　Ｃ：やや不十分。　Ｄ：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度（学期）への主な課題
３年次	高校生としての品格の向上	面談や観察を通して生徒個々を把握し，的確な指導・援助を行うことで生徒個々および年次全体の健全な成長を促す。	⑩⑫⑬			
		集団生活において時間およびルールを遵守し，自ら考えて行動できるよう支援する。	⑪⑫			
		最上級生の自覚を持たせ，身だしなみや言葉遣いを正し，高校生としての品格を高める。	⑩⑫			
	学習活動の一層の充実	授業を重視し，積極的に取り組ませるよう常に啓発する。	①②			
		進路意識を持たせ，家庭との連携を通して，家庭学習の定着を図る。	③④			
		進路決定に向け自主学習能力を育み，自ら勉強に取り組む体制を整える。	④⑤			
	進路希望の実現	将来についての情報提供を積極的に行い，面談を通して，生徒の希望・能力・適性を把握する。	⑦			
		将来を考えた長期的・多角的な視点を持ち，より高度な進路の方向性を決定するよう指導する。	⑧⑨			
		大学短大進学希望者に対し，多様な入試形態に対応できるよう指導し，進学者数の増加を図る。 ＝大学短大進学者160名，うち国公立大学進学者10名＝	⑧⑨			
		専門学校進学希望者に対し，将来の職業を考え，より高い意識で取り組むよう指導する。	⑧⑨			
		就職希望者に対し，分野特性や個人の適性を踏まえ，的確に企業選択ができるよう指導する。 ＝就職内定率100%＝	⑥⑧⑨			
	特別活動への積極的参加	特別活動への参加を通し，責任感・協調性を育て，学校生活の充実を図る。	⑮⑯⑰			
２年次	基本的生活習慣の確立	面談や観察を通して生徒個々を把握し，的確な指導･援助を行うことで，生徒個々･年次全体の健全な成長を促す。	⑩⑫⑬			
		集団生活において時間及びルールを遵守する。	⑩			
		挨拶の励行および言葉遣いを正すことで，高校生としての品格を高める。	⑪⑫			
	基礎学力の定着と向上	授業を重視し，積極的に取り組ませるよう常に啓発し，指導・援助を行う。	①②			
		週末課題の活用や，家庭との連携を通して，家庭学習が定着するよう啓発･指導･援助を行う。	③			
		課外および自習室･Ｑ＆Ａ室の利用を促し，学力の向上に努め，定期考査や模試で成果を上げる。	④			
	分野の専門性を活かした進路の方向性の決定	将来を考えた，長期的・多角的な視点から進路を考えさせ，より高度な進路の方向性を決定するよう指導する。（数値目標　大学進学希望160名，内国公立大学進学希望40名）	⑨			
		分野特性に応じた資格取得により進路選択の幅を広げる。	⑤⑥			
		進路についての情報の提供を積極的に行い，面接を適宜実施して，生徒の希望･能力･適性を把握する。	⑦⑧			
		上級学校の見学により進学先の理解と意識付けを行う。	⑧			
	特別活動への積極的参加	部活動への加入を促進し，個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑭			
		行事・委員会・ボランティア活動・ＨＲ活動を通して心の教育を推進し，学校生活の充実を図る。	⑮⑰			
		修学旅行へ積極的に参加し，集団生活における望ましい人間関係の構築と，自身の人間性を高める。	⑩⑪⑫			
１年次	基本的生活習慣を確立させる。	集団生活の中でルールを守らせ、基本的な生活習慣を身につけることが、健全な高校生活を営み希望の進路を実現することに繋がると考え、日常のＨＲ授業等で適切な指導を継続していく。	⑩⑪⑫			
	基礎学力の定着と向上を図る。	日々の授業を大切にし、積極的に取り組ませるように啓発し、継続して指導・支援していく。	①②			
		週末課題や小テストを活用し，家庭学習が定着するように指導･援助を行う。	③			
		課外指導や自習室・Ｑ＆Ａ室を積極的に利用しながら，より一層の学力の向上に努める。	④			
	適切な進路の方向性を決定させる。	総合学科の特性を活かし，様々な視点から分野を決定させ，より高度な進路の方向性を決定するよう指導する。	⑥⑧			
		進路についての情報の提供を積極的に行い，丁寧な面談を実施して，生徒の希望･能力･適性を把握する。	⑦⑨			
	特別活動へ積極的に参加させる。	部活動への加入を促進し，個人の能力の向上と心身の健康保持増進を目指し、学校の活性化につなげる。	⑭⑯			
		行事・委員会・ボランティア活動・道徳教育を通して心の教育を推進し，学校生活の充実を図る。	⑮⑰			
※評価基準　Ａ：大変よくできた。　Ｂ：よくできた。　Ｃ：やや不十分。　Ｄ：不十分						